

沖郷地区地域公共交通運行協議会（山形県南陽市）



22年間、地区のほとんどが交通空白地帯だったが、地域住民自ら立ち上がり検討協議し、自分たちに必要な地域交通「おきタク」を導入。利用者の声を反映させ、需要に合わせた負担の少ない運行形態・地域住民の負担金により効率的な財政支出を実現し、持続可能なコンパクトパッケージを構築。

（取組の概要）

1. 多様な主体の実質的参画

- 住民自ら立ち上がり地域住民全員を構成員と位置づけた協議会（当初は検討会）を設立し、視察、勉強会、アンケート調査を実施。アンケート回収率は約80%。検討開始から本格運行まで協議を21回行い、運行内容を入念に検討。
- 市交通担当がタクシー事業者等と調整、公民館が協議会の事務局となり住民主体の協議を後方からサポートし、共通認識を共に積み重ねたことで「おきタク」運行の土台を構築。

2. 創意工夫

- (1) 乗用タクシーをベースとする持続可能性を重視した運行形態の構築
 - 住民アンケートで高齢者小規模需要を把握し、乗合型交通では非効率な運行となることから、あえて「乗用タクシー」として運行し、利便性を確保。
 - 需要に合ったサービスレベルを入念に協議し、経費、事業者の手間も含めた負担の少ない運行形態を創り上げた。さらには地区の負担金も合わせることで、より効率的な財政支出を実現し、協議会をバランサーとする持続可能なコンパクトパッケージを構築した。
- (2) 高齢者のおでかけの足となる「おきタク」
 - 高齢者の外出のハードルを下げることで外出機会が増加。まちの賑わい創出、免許返納数の増加に寄与。

※利用者アンケートより
「おきタク」により外出機会が増加したと回答した人 約4割
免許返納すると回答した人 導入前4人 → 導入後38人

3. 自立性・継続性

- (1) 地域の支え合いの意識
 - 地域の支え合いにより運行するサービスとして、対象者や利用の有無を問わず全世帯(2,513世帯)から負担金(200円/戸・年)を徴収し、継続性と住民の意識を向上。
- (2) 公共交通としてのタクシー事業者の維持存続
 - 本事業でタクシーを利用することで事業者の収益の安定化にも寄与。タクシー事業者の存続により地域の交通インフラが維持され、観光等の一般利用者利便の維持継続が図られる。



住民参加の勉強会の様子



運行開始セレモニー
(山形新聞 R1102)

●「おきタク」の概要

対象者	沖郷地区の60歳以上（利用登録が必要） 登録者以外の家族や知人も相乗りが可能
運行時間	平日8時から17時 ※前日予約
運行範囲	自宅とおきタクのりば※間の移動
運賃	1乗車 500円(片道)
利用状況	医療66% 商業19% 金融5% 公共機関10%

※おきタクのりば・・・協議会が指定する乗降場所
現在は医療・金融・公共機関、商業施設54箇所

●「おきタク」と市内路線バス(3路線)の運行経費負担割合・負担額の比較



沖郷地区住民1人あたり
市の負担額 **121円**/年

沖郷地区以外の住民1人あたり
市の負担額 **750円**/年